

# 令和6年度 学校自己評価システムシート(大川学園高等学校・大川学園高等専修学校)

目指す学校像	校訓「自律 協調 奉仕」のもと、一人一人の生徒を大切に、社会に貢献する人材を育てる学校
重点目標	<p>全日制とほとんど変わらない通信制の特長を生かし、「顔晴れ(がんばれ)」を合言葉に、「学び直し」ができる</p> <p>①求める生徒像を明確にし、定員確保に向けた募集活動を行う</p> <p>②情報を共有し、組織として統一した生徒指導を実践するとともに、進路実現のために人格の完成を目指す</p> <p>③生徒一人一人の学力向上をはかり、専門性を高める教育活動を推進する</p>

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校関係者評価委員会会議を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者評価委員	5名
	事務局(教職員)	4名

学校自己評価			年度評価 令和6年12月に実施		学校関係者評価	
年度目標 令和6年6月13日			年度評価		実施日 令和7年2月10日実施	
番号	現状と課題(昨年度の評価から)	P(具体的方策)及びD(実行)	C(評価)	達成度	A(次年度への課題と改善策)	
1	<p><b>生徒募集</b></p> <p>○本校は広域の通信制高等学校ではあるが、実際には本校への入学者は埼玉県と東京都に限定されている。さらに通学区を考えると、中学校の生徒数が少なく、また少子化が著しい地域と言うことができる。加えて近隣に多種多様な教育課程や特徴を持った通信制高等学校が設立され、募集活動において定員を充足させることは容易ではなくなってきた。今年度入学者は福祉科13名、普通科29名の合計42名で、定員80名に対して52.5%と昨年度以上に厳しい数字となった。4年間定員割れが続いており、打開策は急務かつ喫緊の課題である。危機感を持ち、全教職員で中学校訪問を行ったり、教職員ブログを毎日更新したりして、また対策を練るなど努力している。</p> <p>◎これらの現状を踏まえ、地域に根ざした学校づくりを進めていくと同時に、募集域の拡大、中学校や塾訪問等の回数を増やす以外にも今までとは違った方法も考える必要がある。学園祭や「学び直し」の充実、また中学生が興味あるカリキュラムを見直ししていくとともに、ホームページ等WEB関係やSNSの充実も図る必要がある。また、普通科と福祉科それぞれで課題を見直し、数年前に立ち上げた「出前授業促進プロジェクト」は、福祉関係の授業を中心に一層強化する必要がある。</p>	<p>①求める生徒像を明確にし、生徒の獲得に向けた方策を急ピッチで確立させる。</p> <p>②埼玉県福祉研究発表会等に参加し、その実績結果をもとに、福祉科の存在をアピールする。</p> <p>③飯能市の中高連携事業である出前授業に福祉科を中心に参加し、市内生徒入学者50%以上の増加を目指す。</p> <p>④内の充実を図り、学園祭や芸術鑑賞会等を通じて、本校の活動をアピールするとともに広報活動の改善を行う。</p> <p>⑤飯能新緑ソーデーマーチへ生徒会、ボランティア部を中心に協力参加し、本校の教育活動を知ってもらう機会とする。</p> <p>⑥中学校訪問等はアポイントメントを取って行き、説明を丁寧に行う。また、募集域の拡大にも努める。</p> <p>⑦ホームページ等も含めSNSの活用にも努める。</p> <p>⑧学校ブログを毎日更新する。</p> <p>⑨年間13回の学校説明会に加え、10回の放課後相談会、6回の個別相談会を実施し、さらに外部団体の学校説明会に10回以上参加する。</p> <p>⑩福祉科と普通科のプロジェクトチームを中心に募集の方策を改善し続ける。</p>	<p>①求める生徒像を明確に打ち出せず、返って多様な生徒を求める形となった。2/3現在で定員の30%しか満たしていない。</p> <p>②埼玉県福祉研究発表会で優良賞を獲得した。</p> <p>③市内中学校出身の入学者は前年度7名から6名(2/3現在)と減少した。</p> <p>④高専合同の学園祭や芸術鑑賞会を実施し、本校の活動をアピールした。</p> <p>⑤飯能新緑ソーデーマーチにボランティア参加し、地域に貢献した。</p> <p>⑥中学校訪問は一定の成果はあったが、数字には結びついていない。</p> <p>⑦ホームページ等活用したが、成果が上がらなかった。</p> <p>⑧学校ブログは毎日更新した。</p> <p>⑨年間13回の学校説明会、8回の放課後相談会、5回の個別相談会、さらに10回以上の外部説明会に参加したが、効果は上がらなかった。</p> <p>⑩福祉科と普通科のプロジェクトチームは活発に活動できなかった。</p>	D	<p>・私立学校の生命線である募集活動に大きな課題を残した。</p> <p>・広域から狭域通信制へ申請をしている。</p> <p>・埼玉県内唯一の私立高校福祉科をアピールしきれなかった。</p> <p>・学園祭などの学校行事は、コロナ前の状態に戻った。一層活発に行っていく。</p> <p>・ホームページの改善、パンフレットのリニューアルなど行っていく。</p> <p>・動画を製作し、有効活用していく。</p> <p>・生徒募集体制そのものを見直し、V字回復を目指す。</p>	<p>・福祉科は、現場での体験から入学する生徒がいる。体験の機会が大切。</p> <p>・グラウンドがある通信制高校は少ない。ここに差別化をはかれないか。</p> <p>・SNSや動画は必要。</p> <p>・毎日通う通信制と数日しか通わない通信制との長所・短所をどうとらえるか。</p> <p>・ホームページやブログへのアクセス数をカウントしたらどうか。</p> <p>・通信制を中学校教員に見せている学校がある。</p> <p>・中1、中2にも周知してはどうか。</p> <p>・進学者がいる以上、授業の充実が募集活動に結びついていると考えるべき。</p>
2	<p><b>生徒指導と進路指導</b></p> <p>○年間を通して厳しくも温かい生徒指導が行われている。生徒の服装・頭髪を指導するだけでなく、体調や心理状態の把握にも努めている。これにより、問題行動や不登校等を未然に防止している。また登下校指導も行っている。さらに、チャイム着席や整然とした授業により、学業や卒業に対する意識を高める努力がされている。対人暴力や器物損壊などの暴力的な問題行動はほぼ皆無であり、安心安全な学校が定着している。教員による休み時間や授業中の巡回が年間を通して行われている。生徒が教員に対して相談を行いやすいような教育環境が整ってきている。「時間厳守・話を聞く・指導を素直に受け入れる」という本校の生徒指導の基本があらゆる教育機会実践されている。また、生徒の服装等の身だしなみについても力を入れている。進路指導は、進路決定率だけでなく、生徒に本当に合った進路であるか、という進路適性率を高めていく必要がある。</p> <p>◎すべての教員が同じ姿勢で生徒指導に取り組む必要がある。問題行動を起こさない、また起きないような環境を作り出す積極的な生徒指導が必要である。第1学年の宿泊研修が実施され、学校生活の心得を指導した。進路指導においては、3年間を見据えた計画的な進路指導を進めるとともに、就職希望者に対しての高卒求人の新規開拓も必要である。大切なことはメール配信等で確実に保護者に届ける必要がある。</p>	<p>①校内巡回を徹底し、チャイム着席100%を目指す。</p> <p>②集会等で「生徒部長より」の講話を継続し、統一した生徒指導を確立させる。昨年度11件だった生徒指導案件を0件にする。</p> <p>③登下校指導や学校外での行動を改善していくとともに昨年度817人(延べ人数)だった遅刻者を50%以上減少させる。</p> <p>④夏季・冬季休業中に「何でも相談窓口」を設け、手厚い指導支援を行い、昨年度7人だった転退学者を0名にする。</p> <p>⑤各学年ごとに計画的な進路指導計画を策定し、3年間を見据えた進路指導を行う。</p> <p>⑥進路決定率100%を目指すとともに、進路満足度100%を目指す。</p> <p>⑦昨年度870件だった就職求人数の15%増を目指す。</p> <p>⑧家庭との連絡をしっかりとるとともに、重要事項はメールにでも配信する。</p>	<p>①生徒指導を徹底できず、チャイム着席の達成率は71%と昨年度の50%より改善はしたが課題を残した。</p> <p>②生徒部長よりの講話は継続し、全校一致の生徒指導を目指し、11件の生徒指導案件が2/3現在で、6件に減少した。</p> <p>③遅刻者数は延べ760人(1/31現在)と約7%減少した。</p> <p>④夏季・冬季休業中に「何でも相談窓口」を設けた。寄り添った指導を行い、昨年度7名だった転退学者は2/3現在で1名である。</p> <p>⑤学年ごとに計画して進路指導を行った。</p> <p>⑥進路決定率は2/3現在で、95.9%で、進路満足度は92.5%である。</p> <p>⑦就職求人数は1106件と27.1%増だった。</p> <p>⑧家庭との連絡は取れたが、生徒指導上で誤解を生じることがあった。</p>	B	<p>・生徒指導は全教職員が統一した指導を行う、という昨年度の課題への一層の強化が必要である。</p> <p>・生徒部長の講話は一定の効果を見た。生徒指導案件はさらに減少させる。</p> <p>・学校の中で全日型から週一日コースへの転籍の形で、卒業まで導く。</p> <p>・進路決定率は100%、満足度100%を徹底して目指す。</p> <p>・求人数のさらなる増加のための活動を行う。</p> <p>・家庭と連絡を密に取り、積極的生徒指導を行う。</p>	<p>・生徒の登校風景などの雰囲気は良い。</p> <p>・登校時に迎えられている教員も素晴らしい。</p> <p>・挨拶や服装は良いと感じる。生徒への指導はしっかりしている。</p> <p>・生徒は楽しく通っているし、保護者も楽しい。</p> <p>・教員に対する不信感の声は多い。学校は保護者と意見交換すべきではないか。</p> <p>・生徒は学習には満足している。</p> <p>・中学校では教員の暴言アンケートを取っている。それが募集の低迷に結びついているか検証したらどうか。</p>
3	<p><b>学習指導</b></p> <p>○本校生徒の実態を見ると基礎学力定着のため、中学校以前の学習から振り返る必要がある。授業は45分で設定されている。教員は主体的な授業や諸活動に結びつくように創意工夫をしているものの、受動的な授業になる傾向がある。一斉授業についていけない生徒が多いため、プラスワンの講座を設けているが、参加率が高くない。本校の生徒の実態から、個々への対応や基礎的なカリキュラム構成等工夫している。一方で、大学進学を希望する生徒もいる。大学進学後、その専門的内容が理解できるように、高校生としての基礎的な学力をつけることは本校の責務である。また、一般受験を経て進学する生徒に対応できるようなプラスワン講座やカリキュラムも当然必要になってくる。</p> <p>◎中学校以前の学習を振り返る生徒と大学進学等上級学校進学を目指す生徒が同じ教室の中で学ぶ以上、生徒一人一人の実態に合った学習指導を実践していかなければならない。そのために、現在行われているステップアップ講座はもちろんのこと、地域との伝統行事継承のための諸活動も生徒の人間性を育てる貴重な活動になると考える。また、体育祭などの諸活動も生徒主体で行うことで、自主性を大切に教育活動になる。</p>	<p>①普通科においては、学び直しができる仕組みを今年度構築し、学び直しができる環境を用意する。普通科の単位数は75単位の修得を維持していく。</p> <p>②一斉授業についていけない生徒のためのステップアップ講座参加者を30%増加させる。</p> <p>③上級学校で通用する学習方法そのものを指導する必要がある。</p> <p>④教員も各自研修を重ね、常に新しい情報の中で授業を組み立てていくとともに、相互に授業の見学を行い研鑽を積む。</p> <p>⑤大学進学を希望する生徒に対応する進学講座を構築する。</p> <p>⑥学習指導を充実させ、大学への一般受験者を昨年度の1名から5名に増やすことを目指す。</p> <p>⑦市内行事等への積極的な参加とボランティア活動を一層活発化させる。</p>	<p>①普通科の学び直しをブラッシュアップと改名し、次年度への準備を始めた。</p> <p>②ステップアップ講座の名簿上の参加者は28%減少した。2、3年生の継続者が少なかった。</p> <p>③学習方法よりも学習に向かう態度を育成できなかった。</p> <p>④生徒の授業満足度が低く、次年度へ課題を残した。</p> <p>⑤大学進学を目指す生徒のカリキュラムを構築し、次年度より実施する予定である。</p> <p>⑥大学への一般受験者は0名であり、推薦受験が多かった。</p> <p>⑦昨年同様市内行事へ積極的に参加した。ボランティア活動もさらに幅を広げた。</p>	A	<p>・本校普通科の大きな改革であるブラッシュアップデーの運用方策が遅れている。</p> <p>・パンフレットやホームページに掲載できるように早急に急ぐべき必要がある。</p> <p>・選択授業を充実させる。</p> <p>・授業態度や学習に対する取組を教えるのも学校の仕事であるという責任感が必要である。</p> <p>・生徒が授業内容に満足していない。高等学校として高度な内容や授業準備が求められる。</p> <p>・外部との積極的なコラボ授業を実践していく。</p> <p>・進学指導にも力を入れ、一般入試での大学合格者を増やす。</p>	<p>・高度な内容でない生徒は満足しない。学力差はグループ学習を取り入れることで解消ができる。孤立させないというメリットがある。</p> <p>・一定数の大学や専門学校進学者がいる。やはり、授業が一番大切だろう。これが募集に結びついているかも知れない。</p> <p>・アンケート結果から生徒の満足度を高めるために教員は授業をしっかりと行うべき。</p> <p>・体験授業は将来のために必要だと思う。</p>